

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理し、順序良く話すことに課題がある。 ・話し手が何を伝えたいのかを考えながら、最後まで静かに聴くことができない児童が多い。 ・作文を書く際、文と文のつながりがうまくできていなかったり、語彙が少ないために伝えたいことを的確に表現できなかつたりする児童が多い。 ・文章を読み取る力はあるが、読み取ったことを基に自分の考えや想像したことを発表したり、書いたりする力を高める必要がある。 ・丁寧に整った文字を書かなかつたり、習った漢字を日常で使わなかつたりするため、定着が十分でない児童がいる。 ・カタカナ、助詞の使い方、拗長音の表記があいまいな児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを精選し、順序立ててメモに書くなど話すための準備を事前に行うよう指導する。 ・話を聴く時の姿勢を徹底する。自分の考えと比べたり、付け加えたりすることはないか考えながら聴くように継続的に指導する。 ・構成メモを作って作文をし、書くことへの抵抗を減らしていく。短い日記や感想を書くという機会を多く取り入れ、書くことに慣れさせていく。 ・自分の考えや想像したことを書いた後に、交流する機会を意図的に設ける。 ・新出漢字の学習の時間や書写の時間を重点的に、線の長さやとめ、はね、はらいなど字形を意識させた練習に取り組む。日頃から、学習した漢字を用いるよう継続的に声を掛けていく。 ・けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませ、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すことに慣れ、時間的な順序や事柄の順序を整理して話せる児童が増えた。 ○友達の発表の良い所を見付け、自分に取り入れ、学び合う姿が増えた。 ○「はじめ」「中」「おわり」の構成でメモを作ることに慣れ、自分の思いを文に書き表せるようになってきた。 ○物語文や説明文などの段落を分けたり、場面の移り変わりを捉えたりする見方が育ってきた。 ○説明文では、時間や順序を表す言葉に着目して、筆者の伝えたいことや内容を的確に読み取れるようになった。 △学習した漢字が定着しておらず、文章を書く際に使うことができない児童が多かつた。今後も継続して指導していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題では、問題の読み違いや単位の付け忘れなどケアレスミスが目立つ。 ・課題の解決方法を、自分の言葉で説明することが苦手な児童がいる。 ・長さやかさの単位の量感が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題把握の際、分かっていることや聴かれていることに線を引く活動を取り入れたり、「あわせて」などのキーワードに着目させたりして、問題場面をつかみやすくする。 ・言葉や図、式などを用いて、自分の考えを書き表し、説明する経験を積み重ねられるよう、場を設定する。説明の仕方を示すことで、見通しをもって活動できるようにする。 ・実測したり、自分の指幅など体を使った計測を用いたりする中で、量感を養う。またその際、長さやかさの見当をつけてから測定を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決方法について、児童の考え方を発表し合うことで自分の考え方を広げたり深めたり、既習事項を活用して解決しようとしたりする児童が増えた。また、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようと、相手意識をもって自分の考えを書いたり説明したりする児童も増えた。 △数量感覚を養うために、測量活動を授業の中で取り入れたが、継続的に行わないとすぐに忘れてしまう。長さや量の感覚を身に付けるためにも、生活の中で意図的・意識的に活用する場を設ける。

生活	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や生き物、住んでいる町の様子など、知ってはいるものの、無自覚な状態であることが多い。 体験を通して感じたことや、調べた内容についての気づきに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、育てたり、飼ったり、探検したり直接体験や活動をする中で、よさや自分との関わりに気付かせ、無自覚な状態から自覚的な状態に促し、活用できる力を養う。 どのような観点で調べればよいか、予め示しておく。比べたり、分けたり、関連付けたりするなど、気づきを促す具体的な活動を取り入れる。学習カードの良い気づきにアンダーラインを引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜を育て、収穫する活動を通して、生き物に愛着をもつようになった。 ○町探検を通して、町の様子や町の人々の思いや願いに気付くことができた。 △気付いたことを絵や文で表記する力が不十分なため他教科と関連させて指導を工夫していく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 拍にのってリズムを唱える活動は、どの児童もできるようになったが、リズムリレーでは、リズムにのりきれず止まってしまう児童がいて音楽の流れが止まってしまう場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムボックスを利用して、いろいろなリズムにのって言葉を唱える活動を取り入れる。また自分でつくった音楽を全体でリレーする活動を取り入れることで、楽しく自信を持ってリズム活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろなリズムにのって、途切れなく音のリレーをすることができるようになった。 △裏拍のリズムを感じて音楽を演奏することが難しい児童がいるため、手拍子の裏拍のリズム練習をする。
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> つくる方法や順番がわからない。 自分の活動に自信がもてない。 身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 自分のイメージをもつための十分な時間を保障する。 体全体をつかいながら材料とかがかわる題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作例や見本を示すことで、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げることができた。 △十分な時間を保障するだけでなく教師の言葉かけや友達の活動を鑑賞することが必要である。 ○造形遊びの授業で主体的に石や葉などの材料とかがかわる姿が見られた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 列をそろえて素早く並ぶ、きまりを守って安全に活動する、集団に合わせて行動しようとする意識が低い児童がいる。 体幹が弱く、気を付けの姿勢を保つことができない、自分の体をうまく操作できない児童がいる。 自分の体を支える力が弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の前に並び方やきまりを確認する。きまりを守ることの大切さを様々な場面で指導していく。 決まった合図で集合や整列ができるように、日々の体育の授業で繰り返し練習をする。 様々な動きや姿勢を経験させる。 互いに動きなどを見合い、アドバイスや良いところを伝え合える場面を意図的に設ける。 うんていやジャングルジムなどの固定遊具を活用する。鉄棒では、練習カードを用いて目標を意識しながら練習させる。技のコツを教え合う場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の練習や日々の体育の学習を通して、整列や集合が早くなった。学習やゲームのルールやきまりを理解し、互いに教え合うことができるようになった。 ○ゲームを通して、チームごとに作戦を立てたり練習したりしながら協力して活動できた。 △固定遊具に積極的に取り組む児童が増えた。また、ドリル教材などを活用し、体づくりの運動を楽しむ児童の姿が見られたが、継続と技能の個人差がより顕著になった。